

令和 2 年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
農産・蚕糸部門

需要に対応した製販一貫の連携体制による高品質な茶生産の実現

○氏名又は名称 農業生産法人掛川中央茶業株式会社研究部会（代表 佐々木 余志彦）

○所在地 静岡県掛川市

○出品財産物（茶）

○受賞理由

・地域の概要

掛川市は、静岡県の中西部に位置する。同市は県内でも有数の茶産地であり、全国茶品評会深蒸し煎茶の部において全国最多となる通算22回の産地賞を受賞している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

掛川中央茶業株式会社は、昭和25年に静岡県内の荒茶工場で初めて株式会社化し、県内最大級の茶園面積と荒茶工場を有しており、研究部会はこの茶生産の中核を担っている。また、昭和21年に立ち上げた販売会社（佐々木製茶株式会社）と連携し、生産から加工・販売までの一貫体制を構築しており、販売先の要望を迅速に生産へフィードバックできることが最大の強みとなっている。

・受賞者の特色

（1）高品質な茶生産と生産体制の強化

生葉品質の評価や荒茶成分分析、JAと連携した茶園の審査会の実施、機械メーカーによる摘採機等の一斉点検、遮熱シートや CCD カメラを利用した生葉品質管理、土壌分析に基づく適切な施肥設計等により高品質な茶生産を実現するとともに、地域シンポジウム開催による茶園機械化の推進や農地流動化等により生産体制の強化を図っており、生産量や単価は県平均を大きく上回っている。

（2）需要への対応と新たな取組

販売会社と連携した生産方針のタイムリーな共有・決定が価格維持に繋がっている。また、ASIAGAP 認証の取得や「白葉茶」等の研究機関と連携した新技術の導入等の新たな取組を積極的に展開し、輸出に対応した防除体系の導入においては、一番茶でほとんどの国への輸出が可能になっている。

（3）女性の活躍

昭和58年に発足した婦人部は、研究部会の配偶者らにより構成され、「お茶のロールケーキ」等の商品づくりや消費地の宣伝活動等に携わり、女性の感性を活かして活躍している。

・普及性と今後の発展方向

飲料原料用茶や碾茶、紅茶の生産、有機栽培等の先駆的な取組や受賞茶園管理データの他工場への提供等により、地域のモデルとなっている。また、茶園の管理受託による農地の保全や長期に渡る児童への体験学習の実施など、地域貢献も精力的に行ってきた。今後は、オープン予定である茶畑の中の直売店「茶の庭・ショップ & カフェ」を産地の茶の魅力の発信拠点とし、輸出拡大や茶園の再整備等により生産販売の強化を図っていくこととしており、さらなる飛躍が期待される。